

# 中國近代史研究の諸問題

劉大年

中國學術代表團の一員として來日された劉大年氏は、十二月十三日、京大人文科學研究所講堂において、「中國近代史研究の諸問題」と題する講演をされた。本編は、その全文であるが、翻譯には、北村敬直・林要三兩氏をわずらわした。

新中國の歴史家たちは、これまで中國近代史の研究に注意を拂ってきた。十數年來、われわれはこの分野でかなりの成果をあげることができた。ここで私はきわめて簡単に以下の諸問題について説明したいとおもう。

## 一 中國の歴史發展における近代史の地位

中國は長い歴史をもつ國である。そして、近代中國もまた、長期にわたる帝國主義と封建主義に反對する革命闘争

のなかにおかれていた。

一八四〇年のアヘン戦争以後、中國はしだいに半植民地・半封建的社會へと轉化していった。以來、一九四九年の中華人民共和國の成立にいたるまで、中國人民の帝國主義と封建主義に反對する民主革命闘争は、一一〇年を経過している。この民主革命の歴史全體は、一九一九年の五四運動をさかいとして、あきらかに前後二期に分かたれる。前期は舊民主主義革命の時期であり、後期は新民主主義革命の時期である。現在われわれのいう中國近代史とは、アヘン戦争より五四運動にいたる八十年の歴史、すなわち半植民地・半封建的社會の前半段階のそれであり、換言すれば、舊民主主義革命の時期の歴史である。

アヘン戦争以前の中國は封建社會であった。中國史上に

おいて、封建社會は少なくとも二千餘年におよんでいる。アヘン戦争から五四運動まではわずかに八十年の短期間にすぎないが、しかし、中國の社會生活のこの八十年間における變化は非常にはげしいものであった。アヘン戦争以前の中國封建社會において、主要な階級矛盾は農民と地主のあいだの矛盾であり、當時はただ農民の革命運動しかなかった。五四運動以後に、從來にないプロレタリア階級の指導する革命が中國史上にあらわれる。半植民地・半封建の社會性質は變化しないままに、革命の社會的勢力は決定的に發展したのである。

かかる重大な變化が発生したのは、社會的生産力に質的變化がおこったからである。アヘン戦争以前においては、社會生産は主として分散的小農業と手工業であったが、アヘン戦争以後、とりわけ十九世紀の六十年代以後においては、中國にも機械制工業が出現した。以前には主として自給自足の自然經濟であったのが、いまや資本主義的商品生産が登場したのである。もともと中國封建社會の末期、すなわちほぼ十六・七世紀には、封建社會の内部にすでに資本主義の萌芽が孕まれはじめていた。外國資本主義の影

響がなかったとしても、中國はやはり緩慢に資本主義社會へと發展したであろう。外國資本主義——帝國主義の侵入は、中國社會に甚大な分解作用をひきおこした。外國資本主義は、中國において、商品をダンピングし、原料を掠奪し、封建勢力と結託して生産力を阻害し資本主義の成長を壓迫する役割を果たしたのであり、中國社會の各方面にたいして悪い影響を與えた。しかし、反面ではまた、外國資本主義は中國封建經濟の基礎を破壊し、都市・農村間の商品交換を促進して、中國の資本主義生産の發展にある程度の客觀的條件と可能性をつくりだした。發生當時の資本主義がいかに微弱なものであるにしても、結局、中國社會には資本主義が生まれたし、さらにそれは八十年間に不斷に發展していったのである。

社會的生産力の變化につれて、生産關係・階級關係もつづいて變化した。外國資本主義は外部的要因であるとはいへ、中國に侵入して以後は中國を支配する機能を果すようになった。中國の國內には二つの新しい階級——ブルジョア階級とプロレタリア階級が誕生した。これらは中國史上になかった新しい階級である。それと同時に、中國はまだ

眞に封建社會から資本主義社會に轉化していなかったの  
で、地主階級と農民階級もまだ依然として存在していた。  
それらの舊い社會勢力も、新しい情勢のもとでは、新しい  
様相を示すようになった。中國近代史は、きわめて複雑  
な、尖锐な階級闘争に満ちた歴史である。帝國主義の不斷  
の侵略は中國人民の抵抗をひきおこしたし、また、農民と  
地主のあいだにも、地主とブルジョア階級のあいだにも、  
たえまない階級闘争が存在していた。八十年にわたる闘争  
の結果として、一方では、帝國主義が封建勢力と結託して  
中國を完全植民地化のせとぎわまで引き入れたのである  
が、他方では、中國資本主義がわずかながらも發展した  
し、さらに、長期にわたる革命闘争が中國人民の革命的力  
量を大いに鍛えあげた。かくして、中國の歴史はついに一  
歩前進したのである。

## 二 人民が中國近代史の主體である

中國近代史における階級闘争は非常に複雑であり、階級  
觀點の相異により、どうしても人それぞれが自己の立場に  
應じた解釋をくだすことになる。ある人は完全に封建主義

の觀點から近代史を見ようとする。かれらは辛亥革命以前  
の歴史を「道光」「咸豐」「同治」などの皇帝の治世に分  
けて敘述しているが、これは事實上、皇帝・武將・宰相な  
どの反動的支配者の行動を近代史の中心内容とするもので  
あり、封建支配階級を近代史の主體とみなすものである。

ある人は買辦階級の觀點から近代史を見ようとする。かれ  
らは、これまで中國は帝國主義の侵略を受けたことがな  
く、中國の貧困と後進性はいずれも帝國主義と關係がな  
い、といっている。米國の忠實な下僕である胡適や蔣廷黻  
がこの一派の代表的人物である。さらにもう一つの觀點が  
あるが、それは事實上ブルジョア階級の觀點である。かれ  
らは中國近代史をたえまなく帝國主義の侵略を受けている  
歴史として單純に描きだしている。彼らは帝國主義に反対  
し、帝國主義の侵略を痛恨しているのではあるが、しかし  
人民の闘争をまったく無視し、中國人民の強大な力量を見  
ないのである。

上述の觀點はいずれも誤りであり、人民こそが中國近代  
史の主體である。人民の社會的生産活動をはなれ、人民の  
帝國主義・封建主義に反対する革命闘争をはなれては、近

代中國の歴史を科學的に解釋することはできない。

近代史でいう中國人民とは、民族ブルジョア階級・都市小ブルジョア階級・農民およびプロレタリア階級である。

農民大衆はそのうち最大多数をしめており、かれらは斷固として封建勢力に反對するものであり、また斷固として帝國主義に反對するものである。民族ブルジョア階級は新興階級である。都市小ブルジョア階級もだいたいこれと同じ立場にある。プロレタリア階級は、當時すでに存在しているが、まだ独自の政治勢力にはなっておらず、ブルジョア階級・小ブルジョア階級の追隨者として革命に参加したにすぎない。要するに、近代史における中國人民の主力軍は農民階級と民族ブルジョア階級である、ということができる。

農民大衆はこの八十年間に壯烈な歴史劇を演じた。アヘン戦争以來、農民はかれらが斷固として外國侵略者に抵抗する勢力であることを示してきた。農民は封建支配勢力とはさらに以前から對立してきた。太平天國運動は中國近代史における最初の、かつ規模最大の農民運動である。その鋒先は主として國內の封建勢力にむけられていたが、同時

にまた、それは外國侵略勢力に反對する鬭争をもおしすすめた。もし太平天國革命がおこらなかつたならば、清朝政府をいたたく封建支配勢力の御威光を地におとすことはできなかったであろうし、さらには、辛亥革命で清朝を打倒し、勝利をおさめることなどは想像すらできなかったであろう。義和團運動は、農民大衆がいつそう直接的に帝國主義侵略反對に立ちあがった革命運動である。當時はすでに日清戦争を經過しており、帝國主義侵略者たちは直接に中國を分割しようとしていた。義和團運動は、事實上、帝國主義の中國分割の陰謀にたいする強硬な抗議となった。

これ以來、帝國主義は直接に中國を分割することが不可能であること、もしそうしようとすれば、必ず頑強な抵抗にくわすにちがいないことをさつたのである。帝國主義は比較的めだたぬ方法で中國を支配することを考えねばならなくなった。この意味で、義和團は帝國主義がその中國分割の陰謀を實現するのを阻止し、中國が當時直面していた亡國の危機を救つたのである。農民はまた辛亥革命の参加者でもあつた。辛亥革命の大衆の隊列は、「會黨」を組織形態とする一部の農民、「新軍」を組織形態とする一部

の革命的インテリゲンチヤおよび農民によって組織されたものである。農民の参加があつてはじめて辛亥革命の巨大な風潮も形成されたし、また、この革命の一定の意味における勝利を獲得することもできたのである。レーニンは「革新された中國」という文章において辛亥革命直後の情勢を論評し、中國のブルジョア階級政黨の主要な支柱は廣汎な農民大衆である、とのべている。太平天國・義和團の二度の革命鬭争はともに失敗し、辛亥革命における農民はブルジョア階級に指導される大衆の力量としてあらわれたものであつたとはいへ、しかし、このことによつて中國近代史における歴史發展の原動力としての農民の巨大な役割を抹殺することはできない。とりわけ、太平天國・義和團運動の時代には、ブルジョア階級もまだ直接に革命に立ちあがつていないし、プロレタリア階級もまだ独自の役割をはたすまでにはいたつていないのであつて、かえつて、農民が一貫して革命の最前列に立つており、彼らが帝國主義・封建主義に反對する主要力量であつたのである。

中國近代史において、農民大衆は先進的なプロレタリア階級の指導がなかつたので、かれらが革命で獲得する成果

ははなはだしく制限されざるをえなかつた。農民大衆は、第一に、完備した現實性のある綱領をかかげて自己の革命を指導することができない。太平天國も義和團もそうであつた。第二に、彼らは自己の隊列を鞏固にすることが容易でなく、革命の隊列のなかにいる遅れた勢力の墮落作用を制止することが困難である。太平天國も義和團もそうであつた。

民族ブルジョア階級は革命的人民のなかのもう一つの重要な構成部分である。近代史における中國のブルジョア階級の狀況はきわめて複雑である。中國ブルジョア階級の一つは買辦ブルジョア階級であつて、これはアヘン戦争直後に形成された。アヘン戦争の結果、五港が開港され、英國その他の資本主義國の商人は沿海の港に自由に出入し、必要とする代理人を選択できるようになつた。一部の中國商人はしだいに外國の直接支配下にはいつて外人のために働くようになり、かくして、買辦ブルジョア階級が生まれたのである。彼らは最初から反革命の側に立ち、經濟においても政治においても、對外的には帝國主義と結びつき、對内的には封建勢力と結びついていた。たとえば太平天國革

命の際に、買辦ブルジョア階級はその反動的役割をはたしている。

中國のブルジョア階級には、もう一つ、地主・官僚から轉化したものもある。かれらは權力をもっておらず、商工業の自由な發展を要求して、封建勢力とのあいだに矛盾を生じていた。しかし、かれらはまた封建勢力と密接な關係をもっており、革命には賛成しなかつた。この勢力は民族ブルジョア階級の上層とよんでよいであろう。戊戌維新運動における康有爲、辛亥革命時期の張謇等の人々の行動が、すなわちそのような地主・官僚から轉化してきたブルジョア階級の要求を代表しているのであり、換言すれば、民族ブルジョア階級の上層の要求を代表しているのである。

民族ブルジョア階級には、もう一つ、小生産者から發展したものもある。彼らは上述の二つのブルジョア階級とは異なり、帝國主義・封建主義との關係が比較的うすいか、あるいは全くない。かれらは、帝國主義の壓迫を受け、封建主義の束縛を受けており、帝國主義・封建勢力と矛盾をもっている。かれらは當時において革命性を有していた。この勢力は中下層の民族ブルジョア階級とみなしてよいであ

ろう。この勢力は微弱であつたが、かれらはしだいに成長した。小ブルジョア階級のインテリゲンチヤおよび一般の都市小ブルジョア階級もかれらの陣營に参加することができた。民族ブルジョア階級は辛亥革命における革命派の社會的基礎である。孫中山が革命活動を開始したとき、まず華僑のなかにこのような社會的勢力を見つけた。同盟會の時期になると、その他のブルジョア階級の政治團體のメンバーをも吸収したことにより、同盟會という戰鬥性に富むブルジョア政黨の階級的基礎およびその社會的勢力は、いっそう擴大した。そのなかには華僑と國內の民族ブルジョア階級の代表を包括しており、また多數の小ブルジョア階級のインテリゲンチヤも革命の戦列に参加することとなつた。當時、ブルジョア階級は經濟的に孫中山の革命運動を支持したばかりでなく、革命的ブルジョア階級のある代表は武装蜂起の行動に直接に参加した。レーニンは「中國の民主主義と人民主義」という文章で、辛亥革命の時期において、中國のブルジョア階級と西洋のブルジョア階級は異なっており、西洋のブルジョア階級は墮落し、完全に反動化していたが、中國のブルジョア階級はこのときにはま

だ革命的であった、とのべている。

太平天國・義和團の革命運動はいずれも農民を主體としていた。兩次の革命運動の失敗は、單純な農民革命では勝利を得ることができないことを明らかにした。しかし、プロレタリア階級は當時まだ自覺的な階級になっておらず、これがために、この時期において歴史を推進する責任は、ブルジョア階級革命派が一身に荷わされることとなった。

したがって、われわれは、近代史全體の主體をなすものは中國人民である、といいうるのである。人民をさらに分析すれば、民族ブルジョア階級、小ブルジョア階級、農民および労働者に分けることができる。その對極にあるのは、帝國主義と封建勢力である。帝國主義の侵略は中國の封建支配者の利益をある程度損なわざるをえなかつたので、帝國主義と封建勢力のあいだにも當然矛盾と鬭争が存在した。しかし、この二つの反動勢力は結局結合した。それらは協同して、中國人民のなかからおこつた農民運動に反對し、またブルジョア階級の指導する革命運動にも反對した。

封建主義・買辦階級の觀點でもって中國近代史を敘述する人々の目的は、帝國主義や封建主義の搾取や壓迫を辯護

することにがある。中國近代史研究のさまざまな誤つた觀點と正しい觀點の對立は、基本的には、ブルジョア階級の觀點とマルクス主義の觀點の對立である。歴史の事實は前者が誤っており、後者が歴史に合致し、科學に合致するものであることを證明している。

### 三 中國近代史における三回の革命の昂揚

農民階級と民族ブルジョア階級がこの八十年の歴史における中國人民の主要勢力であつた以上、農民がおこなる革命運動およびブルジョア階級がおこなる革命運動を通じ、また、これらの二つの階級の相互關係の變化と發展を通じて、この時期に革命階級が反革命階級といかに對立したかを見てとることができるし、また中國近代史の眞の様相を見ることが出来る。外國資本主義が中國に侵入したときから、中國人民は一貫して止まることなく、帝國主義と封建主義に反對する革命鬭争を進めてきた。なかでも重要な鬭争は、一八四〇〜四二年の對英アヘン戦争、一八五六〜六〇年の對英佛第二次アヘン戦争、一八五一〜六四年の太平天國農民戦争、一八八三〜八五年の清佛戦争、一八九四〜

九五年の日清戦争、一八九八年の戊戌變法、一八九九—一九〇〇年の義和團運動、一九一一年の辛亥革命である。中國近代史におけるたえざる革命闘争のうちで、われわれは三度の革命の昂揚を見出すことができるが、これらの昂揚のなかに近代中國の諸階級關係をいっそう明瞭に見てとることができよう。

革命の最初の昂揚は太平天國の農民革命である。太平天國は、一八五一年の金田蜂起から六四年に南京が陥落して敗北するまで、十四年間つづいた。揚子江流域の廣大な土地は長期にわたって革命勢力の支配下におかれ、北方の捻軍やその他の地方の農民もまた前後して武装蜂起し、太平軍に呼應した。太平天國革命は、外國資本主義が中國に侵入し、清朝支配の腐敗が一段と暴露され、地主階級の農民にたいする搾取が一段と増加したという歴史條件のもとで發生したものであり、地主階級と農民階級のあいだの矛盾の巨大な爆發であった。この農民革命は、封建的支配勢力に強烈な打撃を加えるとともに、清軍と協同して太平天國を鎮壓しにかかった英佛侵略者および外國の傭兵にたいして英雄的に抗戦した。當時の中國には獨立したブルジョア階

級はまだ存在しておらず、すでに登場していた買辦ブルジョア階級は外國侵略者と結託していた。程度はさまざまながら資本主義的思想傾向をもつ少數のインテリゲンチヤも、農民革命に同情しないばかりでなく、かえってそれに反對した。この時期においては、農民こそが唯一の革命勢力であったのである。

革命の二度目の昂揚は義和團農民運動である。ブルジョア改良運動である戊戌維新運動もこの時期に發生した。當時の中國革命の情勢は、もはや最初の革命昂揚期ほど簡單ではなかった。一八六四年以降の三十餘年間に、中國は多くの重要事件を経験した。帝國主義の侵略はすでに中國において半植民地・半封建的な支配秩序をつくりあげており、新興のブルジョア階級も帝國主義の重大な脅威を感じるようになっていた。この時期に、すでに農民大衆は革命闘争を行ない帝國主義の侵略に反對していたが、同時にまたブルジョア階級の改良運動もおこっていた。當時、帝國主義はまさにかれらの中國における勢力範圍を擴大し、中國を分割しようとする陰謀をめぐるしていた。亡國の危機を目前にして、ブルジョア階級改良派の代表である康有爲



は「救亡圖存」のスローガンを提起していたし、農民革命の鋒先はさらに直接的に帝國主義にむけられていた。農民が義和團運動において提起したスローガンは「扶清滅洋」である。外國の侵略に反対するというこの一點では農民とブルジョア階級は一致していた。しかし、農民は革命を行

なおうとしており、ブルジョア階級は逆に革命に反対している、という點で兩者には根本的な相違點があった。ブルジョア階級は農民の革命的力量を排斥し、改良的方法を用い、清朝政府に依存しつつ漸進的に政治制度を改良し、帝國主義侵略を緩和して資本主義の發展を有利にしようと意圖していたし、また、政治的改良を、革命を阻止する手段にしようと考えていた。したがって、この時期においても革命的農民大衆はいぜん孤立して戦っていたのであり、その帝國主義に反対する鬭争はやはり失敗におわらざるをえなかつたのである。ブルジョア階級改良派が提起した「救亡圖存」という思想は、當時の新思想である。それは、一部の青年インテリゲンチヤおよび開明的地主紳士の天下の大事にかんする注意を喚起し、中國の制度を改革することを要求させ、多少の進歩的役割を果した。しかしながら、た

とえブルジョア階級改良派が資本主義的進歩思想を抱いていたにしても、かれらが農民の力量に目をつぶり、その革命的力量を排斥する以上、かれらの改良運動はたちまちのうちに失敗せざるをえなかつたのである。

革命の三度目の昂揚はブルジョア階級の指導する辛亥革命である。中國の資本主義は二十世紀初頭に初歩的な發展をとげた。實業の發展を要求する民族ブルジョア階級の熱烈な願望は、帝國主義の意向を實行する清朝の賣國的專制支配と日増しに鋭く矛盾するようになった。一九〇五年に孫中山の指導する同盟會が東京で結成されたことは、ブルジョア民主主義革命が昂揚期にはいりはじめたことを示している。その後、同盟會は一面では理論鬭争を展開してブルジョア階級改良主義との境界線を明かにするとともに、一面では國內において連續的に武装蜂起を行ない、革命情勢の昂揚をもたらした。これが辛亥革命の爆發のまえの情勢である。

一九一一年十月、ブルジョア階級革命派は武昌で蜂起して清朝政府を打倒し、一定の勝利をおさめた。辛亥革命には、太平天國や義和團の運動とくらべて、二つのきわだっ

た特徴がある。第一に、それがブルジョア階級の指導したものであったがゆえに、革命において提起された一連のブルジョア民主共和國の綱領——「建立民國、平均地權」を含んでいる綱領は、より現実的であり、比較的廣汎な革命大衆を動員することができた。第二に、ブルジョア階級は革命闘争を行うとともに、一部の農民・プロレタリア階級に働きかけてその支持をえた。したがって、この革命は少數者の行動ではなく、大衆的革命闘争であった。辛亥革命が一定の勝利をおさめた理由は、このことから説明することができる。しかし、ブルジョア階級は、この革命において、反封建主義の綱領を實行せず、反帝國主義の綱領を提起せず、また、眞に廣汎な大衆に依據して徹底的に革命を遂行しようとしなかった。ブルジョア階級は革命が始つたばかりのところで、革命の敵——帝國主義と封建主義に讓歩し、かれらと妥協し、革命大衆——プロレタリアートと農民と手をきつたのである。

三回の革命の昂揚にあらわれた、農民とブルジョア階級という二つの革命的階級のあいだの相互關係は、たえず變化し發展している。最初は單純な農民革命であり、二度目

はブルジョア階級改良運動と農民革命が別々の道を歩んだものであり、三度目は農民がブルジョア階級の指導する革命に参加したものである。大きな革命の昂揚のたびごとに、帝國主義・封建主義がかれらの支配の方法の改善を考慮せざるをえないようにされたことは明明白白である。たとえば、帝國主義は中國を直接に分割する方法をあらため、かれらの利用しうる反動勢力を育成して中國を支配し、表面的には中國の獨立と統一という局面を維持せざるをえないようにされた。また、滿清政府は「祖宗成法」を放棄して「變法」の主張をうけいれ、立憲君主制を提起してこれによって革命に抵抗せざるをえないようにされた、等々。そして、革命の昂揚のたびに、階級關係の新たな變化がひきおこされ、中國の近代史は一步づつ前進したのである。

中國近代史研究の根本任務は、具體的事實の分析を通じてこの時代の階級・階級關係がいかに變化し、階級闘争の狀況がいかに發展したかを説明することにある。換言するならば、この時代の階級および階級闘争がいかなる客觀的法則を體現しているかを説明することにある。三度の革命の

昂揚から考察すれば、階級闘争の發展過程はとりわけ明瞭にあらわれている。

中國革命における階級配置は五四運動以後に一大變化がおこり、中國のプロレタリア階級が獨立し自覺した勢力として歴史の舞臺に登場し、革命の指導勢力となった。このことは中國革命に新しい局面をきりひらいた。これ以後、中國は新民主主義の革命を開始したのであり、中國の半植民地・半封建制社會の歴史はその後半の段階、すなわち新民主主義革命の時期にはいったのである。そして、中國共產黨の指導のもとに三十年の苦難の闘争を経て、新民主主義革命の偉大な勝利を獲得した。一九四九年の中華人民共和國の成立は、中國人民の百餘年におよぶ反帝反封建闘争の勝利の標識である。中國の半植民地・半封建制度の歴史も、ここに終止符をうったのである。

× × ×

最後に、つぎのことを述べておかねばならない。新中國の歴史家たちが近代史研究において取りあげる問題は非常に廣汎である。上述のことは、われわれが検討した若干の根本問題にすぎない。現在、わが國の社會主義建設はまさ

に日進月歩の勢いで發展しており、人民大衆は熱愛する祖國の歴史を理解しようとするさしせまった要求をもっている。しかし、われわれの仕事は、まだ廣汎な大衆の要求を満たすにはほど遠く、なおいっそうの努力を必要としている。中國の近代史研究者は日本の進歩的學者のこの分野におけるすぐれた研究に深い關心をもっている。われわれがおたがいに共通の關心をもつ問題について意見を交換し、討論を行うことは、中國近代史の研究水準を高めるうえで、必ずや有益であろう、と私は確信している。